

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年6月16日(金)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

令和5年第18週から第21週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ/COVID-19 定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～21週)4週 (R5.5.1～R5.5.28)	前回(14週～17週)4週 (R5.4.3～R5.4.30)	前々回(10週～13週)4週 (R5.3.6～R5.4.2)
1 感染性胃腸炎 (622) [↓ 76]	1 感染性胃腸炎 (698)	1 感染性胃腸炎 (685)
2 新型コロナウイルス感染症 (255) [—]	2 インフルエンザ (178)	2 インフルエンザ (557)
3 インフルエンザ (172) [↓ 6]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (141)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (101)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (159) [↑ 18]	4 RSウイルス感染症 (27)	4 突発性発疹 (16)
5 RSウイルス感染症 (54) [↑ 27]	5 突発性発疹 (23)	5 咽頭結膜熱 (15)
6 その他 (104) [↑ 78]	6 その他 (26)	6 その他 (13)
(合計 1,366)	(合計 1,093)	(合計 1,387)

注) 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、令和5年第19週からの報告件数。

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は1,366件であり、25%(273件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
RSウイルス感染症 100%	感染性胃腸炎 11%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 13%	インフルエンザ 3%

3 コメント

- ・西部地区において、県内4年ぶりとなる麻しんの発生がありました。麻しんは、本年5月に国内での感染伝播事例が報告されるなど、全国で感染事例が増加しており、注意が必要です。麻しんは、感染力が非常に強く、手洗いやマスクでは完全に防ぐことはできません。予防方法としてはワクチンの2回接種が有効です。
- ・新型コロナウイルス感染症は、4月下旬からゆるやかな増加傾向が続いています。新型コロナウイルス感染症は5類感染症に見直されましたが、感染力の高さに変わりはありませんので、周りの方や重症化リスクの高い方への感染を防ぐため、エアロゾルを意識した換気や手洗い、医療機関受診時等でのマスクの着用などの感染防止対策を行うとともに、感染時には無理せずに出勤や登校を控えましょう。
- ・インフルエンザは、冬シーズンが終わり減少傾向であるものの、引き続き県内外を問わず集団感染事例等が確認されています。また、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど、様々な呼吸器感染症で増加傾向がみられており、注意が必要です。手洗いや換気などの感染予防をお願いします。
- ・感染性胃腸炎は例年に比べ感染者数が多い状況が続いており、集団感染事例も確認されています。トイレやオムツなどの汚物処理の後や、調理、食事の前の手洗いを徹底しましょう。
- ・東部地区において、飼い犬の重症熱性血小板減少症候群に引き続き、人の日本紅斑熱が確認されました。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが効果的です。
- ・梅毒が増加しています。本年は5月末時点で既に昨年1年間の発生件数と同数報告されており、注意が必要です。早期発見と適切な治療が必要です。感染の不安があるときは、早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

令和5年第18週～第21週の報告患者数

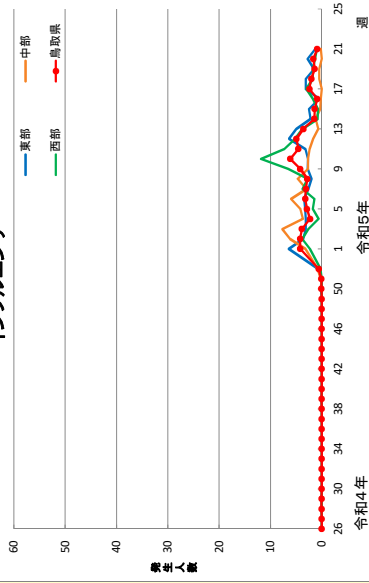
令和5年6月8日 作成

区 分	今回報告患者数 第18週～第21週(4週分)					前回報告患者数 第14週～第17週(4週分)				前々回報告患者数 第10週～第13週(4週分)				前回比 増 減	令和5年 患者数 累 計
	東部	中部	西部	計	増減	東部	中部	西部	計	東部	中部	西部	計		
	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
インフルエンザ/COVID-19定点数	(12)	(6)	(11)	(29)		(12)	(6)	(11)	(29)	(12)	(6)	(11)	(29)		
1 インフルエンザ	103	7	62	172	-6	99	10	69	178	205	44	308	557	-3%	1,797
2 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	86	83	86	255	-									-	255
小児科定点数	(8)	(4)	(7)	(19)		(8)	(4)	(7)	(19)	(8)	(4)	(7)	(19)		
3 咽頭結膜熱	8	19	16	43	32	5	2	4	11	0	12	3	15	291%	89
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	117	10	32	159	18	111	5	25	141	85	3	13	101	13%	603
5 感染性胃腸炎	298	161	163	622	-76	357	191	150	698	306	213	166	685	-11%	3,175
6 水痘	1	0	3	4	3	0	0	1	1	4	0	0	4	300%	17
7 手足口病	0	12	0	12	3	0	8	1	9	0	0	0	0	33%	30
8 伝染性紅斑	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0%	5
9 突発性発疹	4	7	7	18	-5	3	9	11	23	0	9	7	16	-22%	103
10 ヘルパンギーナ	2	14	4	20	20	0	0	0	0	0	0	1	1	-	26
11 流行性耳下腺炎	0	1	0	1	-1	0	1	1	2	0	0	1	1	-50%	5
12 RSウイルス感染症	37	5	12	54	27	5	0	22	27	1	0	2	3	100%	94
眼科定点数	(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
13 急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	-	1
14 流行性角結膜炎	0	2	2	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	-	6
基幹定点数	(2)	(1)	(2)	(5)		(2)	(1)	(2)	(5)	(2)	(1)	(2)	(5)		
15 細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	-	1
16 無菌性髄膜炎	0	0	0	0	-2	0	0	2	2	0	0	0	0	-100%	2
17 マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
18 クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0
19 感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	-	5
合 計	657	322	387	1,366	273	580	226	287	1,093	604	281	502	1,387	25%	6,214

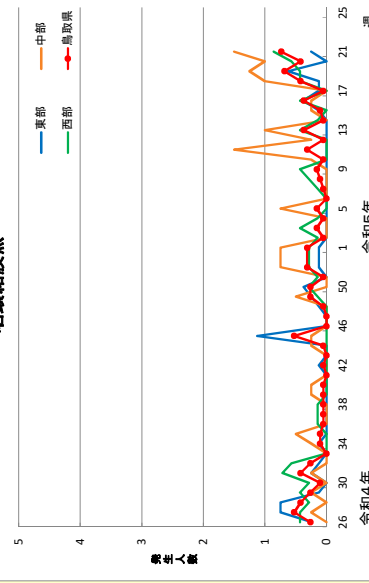
注)新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和5年第19週からの報告件数。

地区別発生状況グラフ(定点当たり)

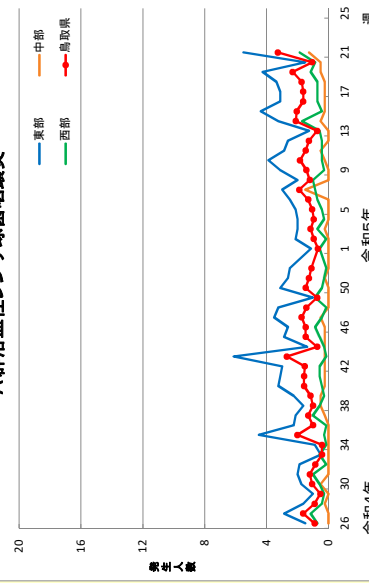
インフルエンザ



咽頭結膜熱

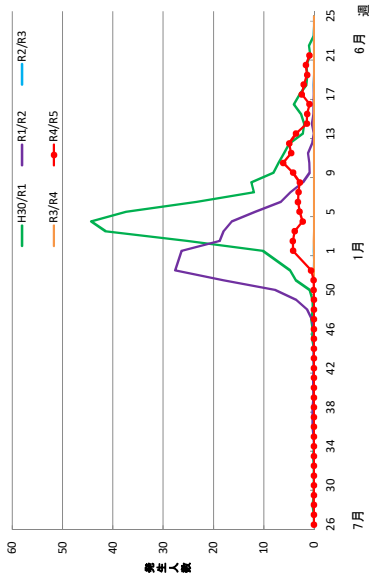


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

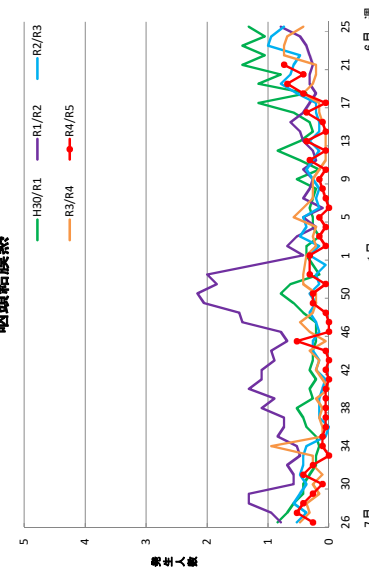


年次別発生状況グラフ(定点当たり)

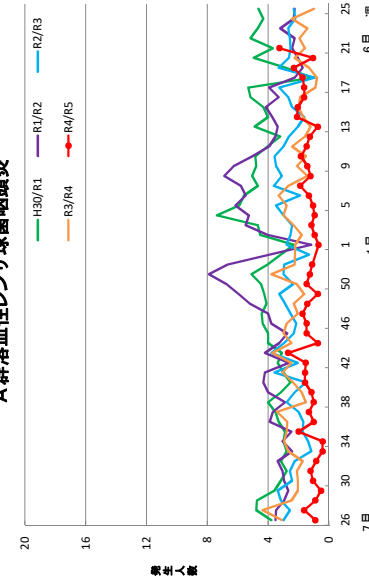
インフルエンザ



咽頭結膜熱

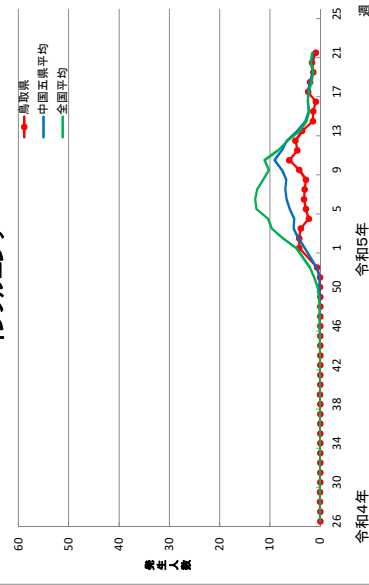


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

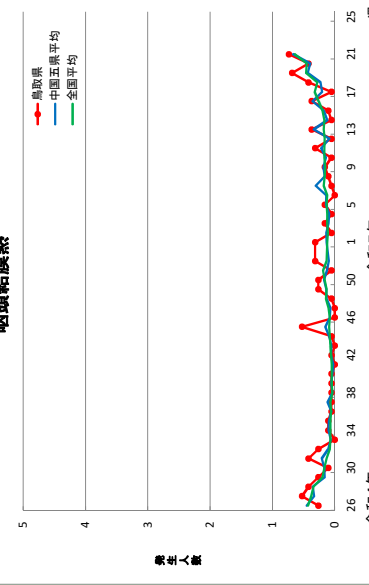


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

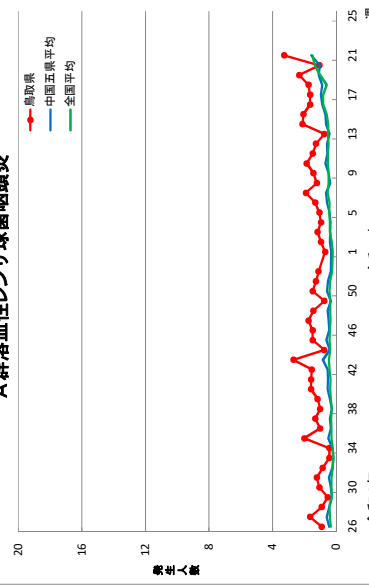
インフルエンザ



咽頭結膜熱

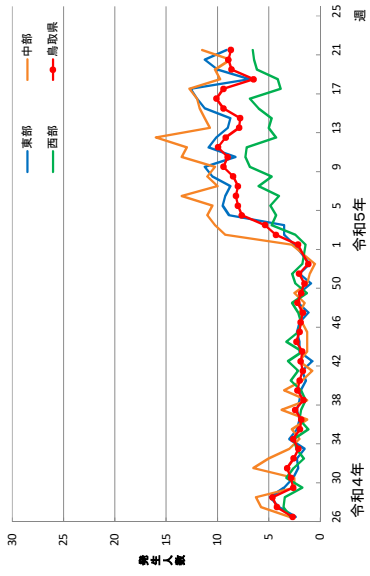


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

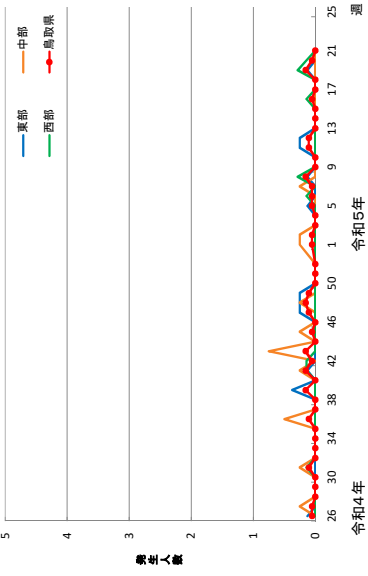


地区別発生状況グラフ(定点当たり)

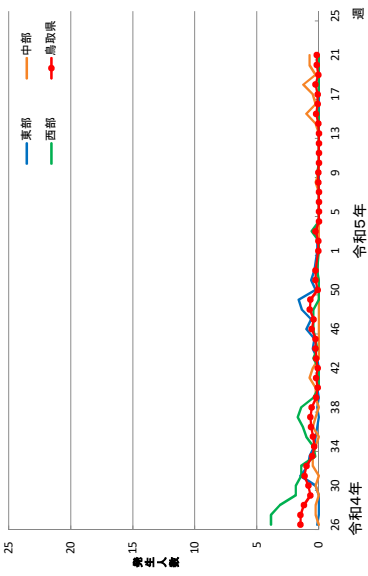
感染性胃腸炎



水痘

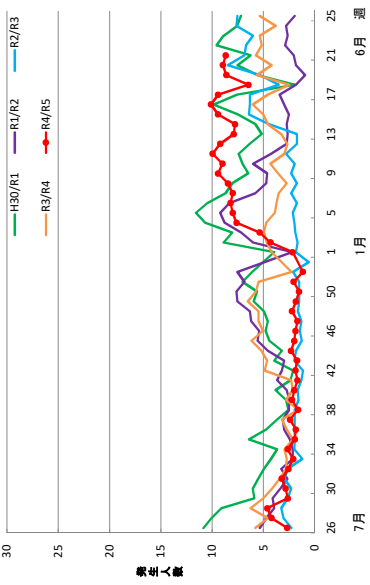


手足口病

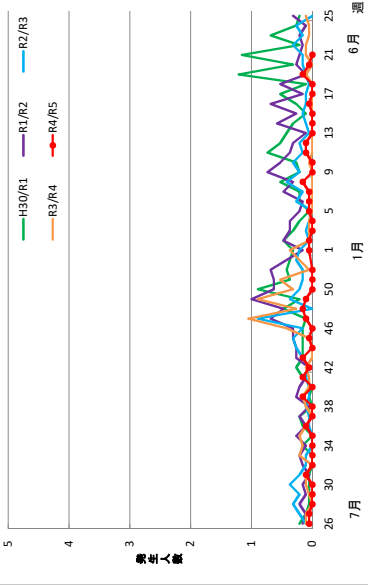


年次別発生状況グラフ(定点当たり)

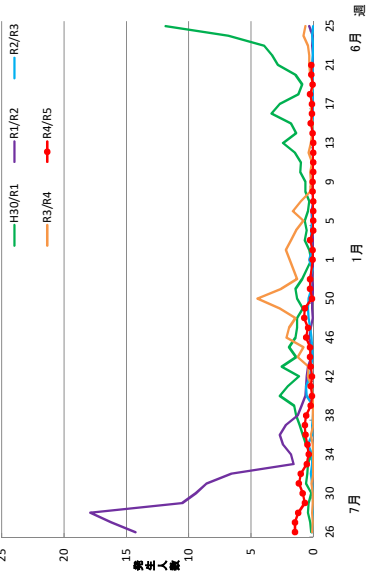
感染性胃腸炎



水痘

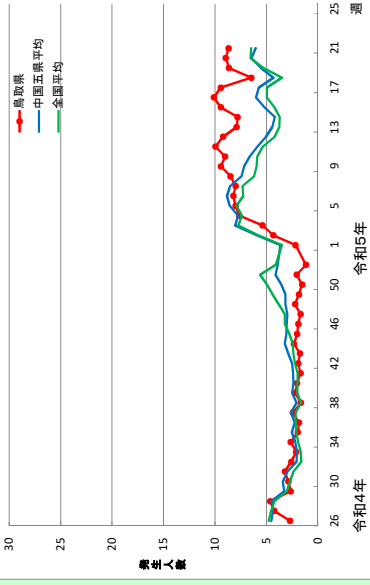


手足口病

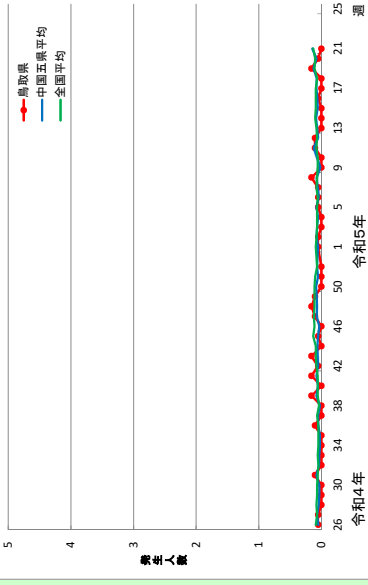


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

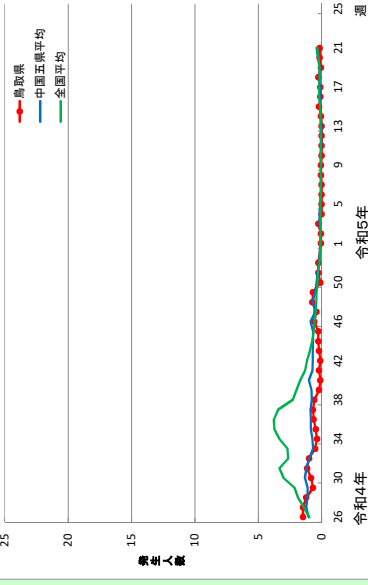
感染性胃腸炎



水痘

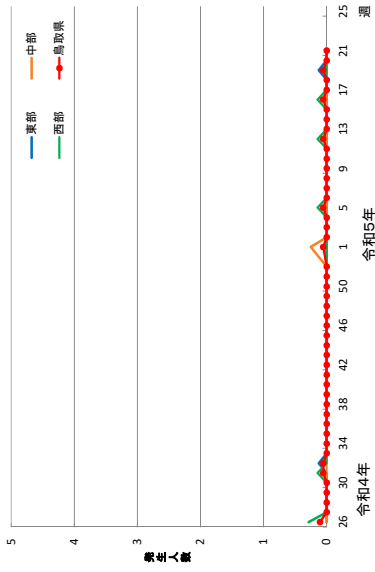


手足口病

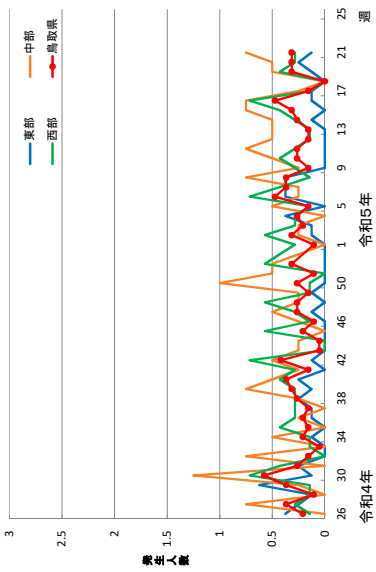


地区別発生状況グラフ(定点当たり)

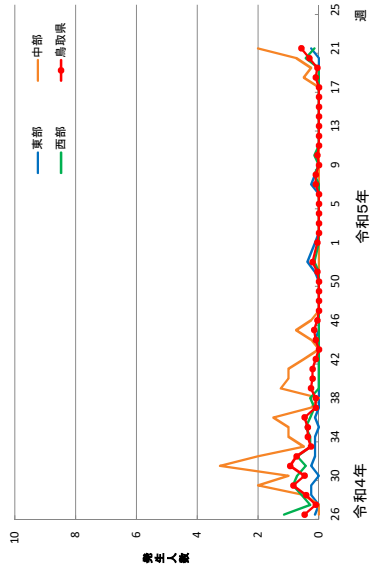
伝染性紅斑



突発性発疹

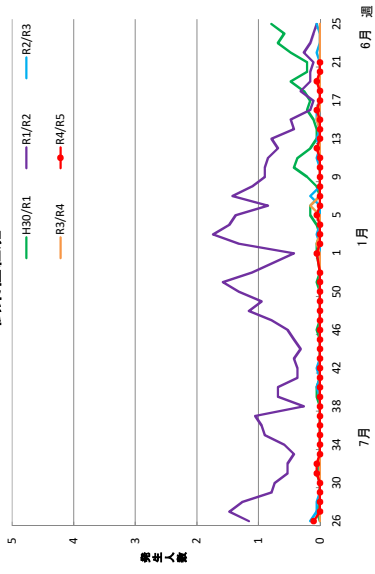


ヘルパンギーナ

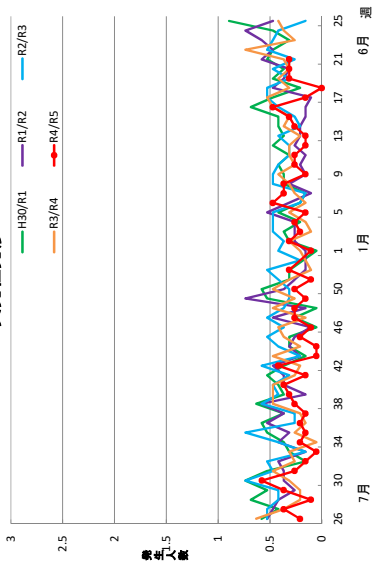


年次別発生状況グラフ(定点当たり)

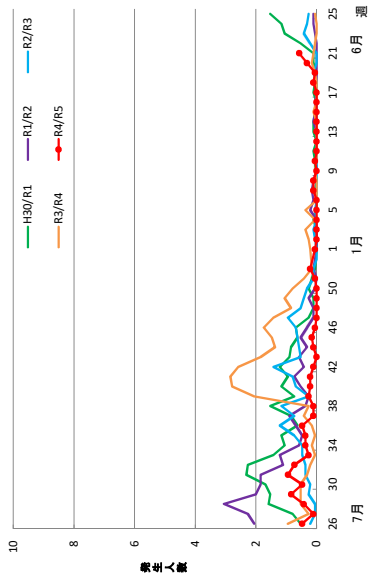
伝染性紅斑



突発性発疹

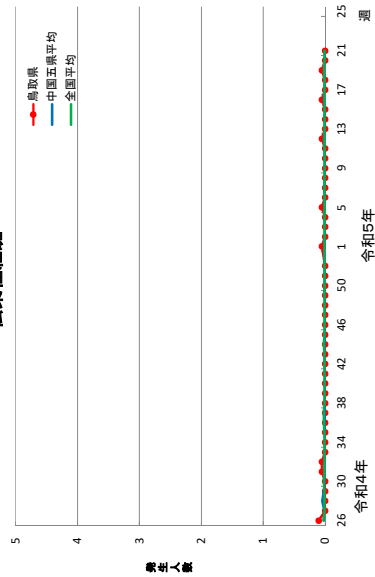


ヘルパンギーナ

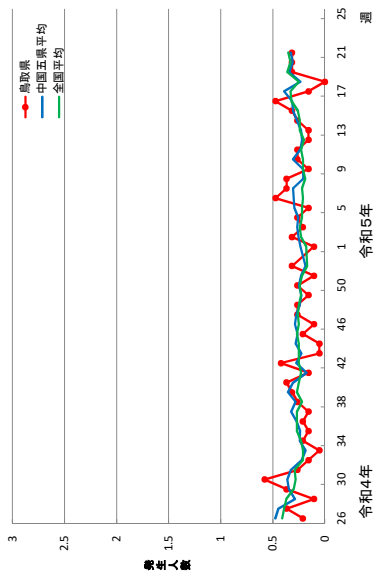


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

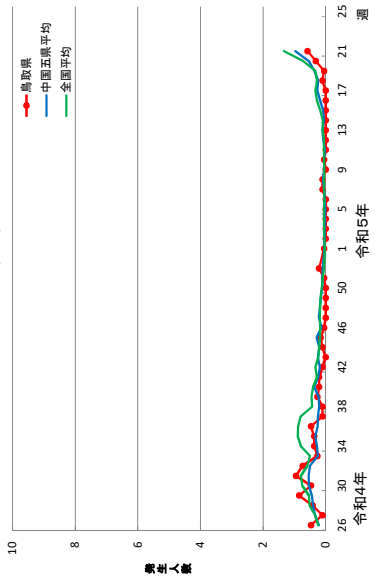
伝染性紅斑



突発性発疹

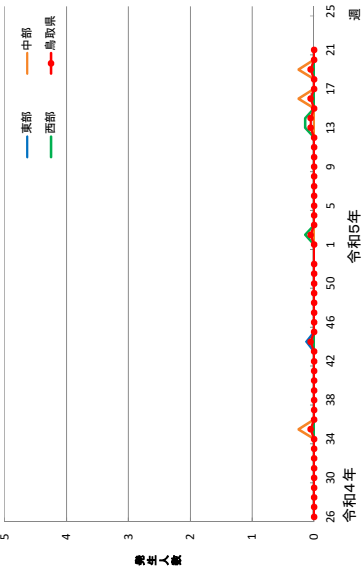


ヘルパンギーナ

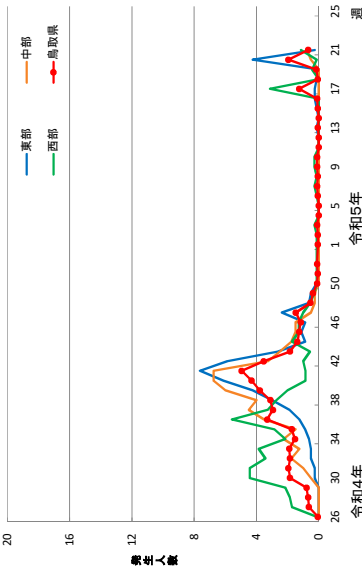


地区別発生状況グラフ(定点当たり)

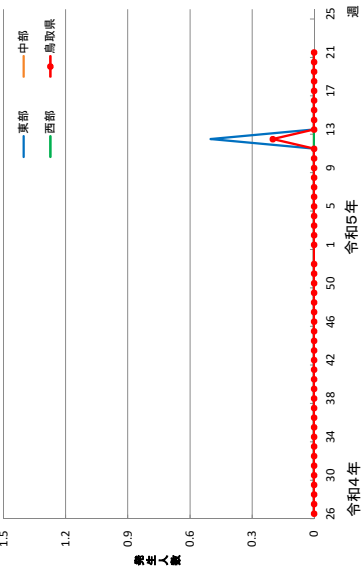
流行性耳下腺炎



RSウイルス感染症

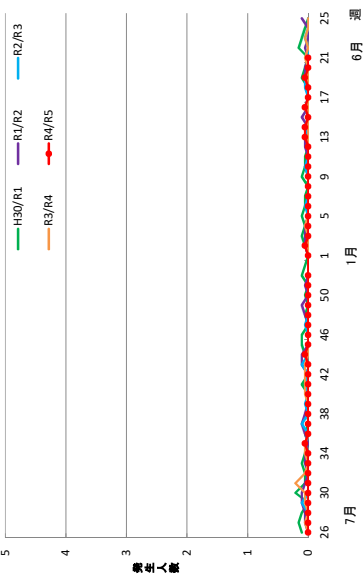


急性出血性結膜炎

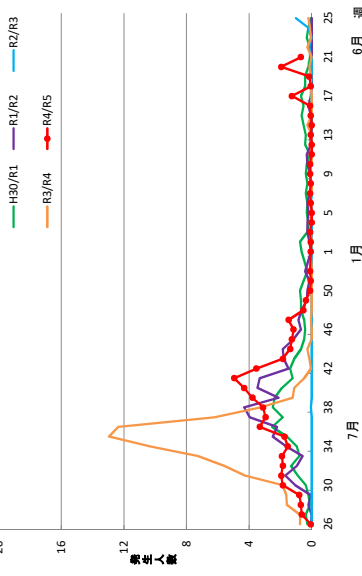


年次別発生状況グラフ(定点当たり)

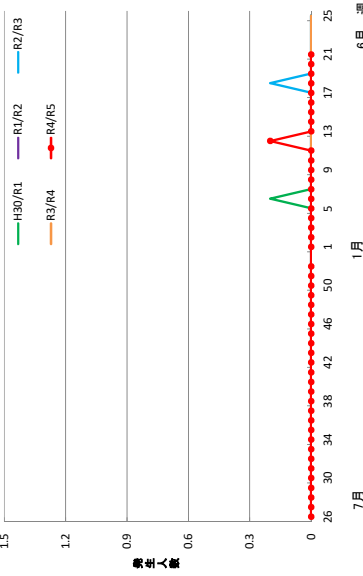
流行性耳下腺炎



RSウイルス感染症

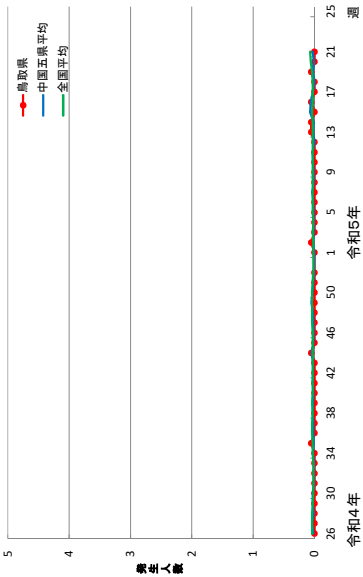


急性出血性結膜炎

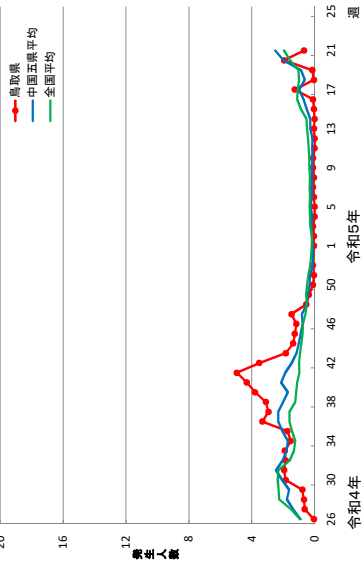


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

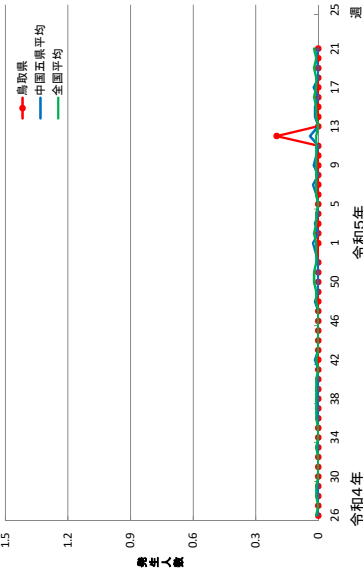
流行性耳下腺炎



RSウイルス感染症

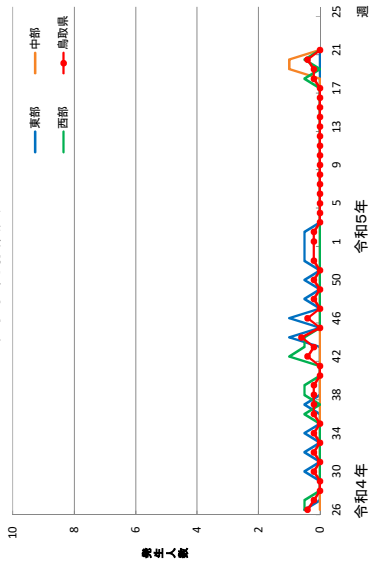


急性出血性結膜炎

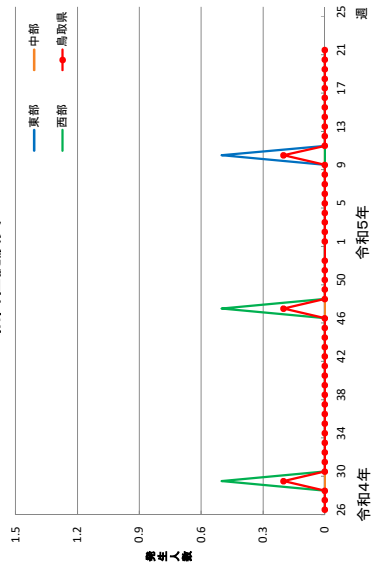


地区別発生状況グラフ(定点当たり)

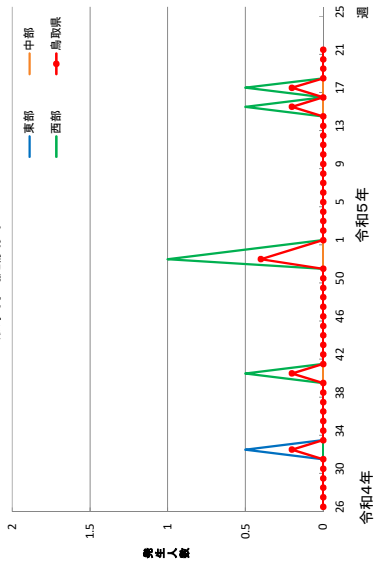
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎

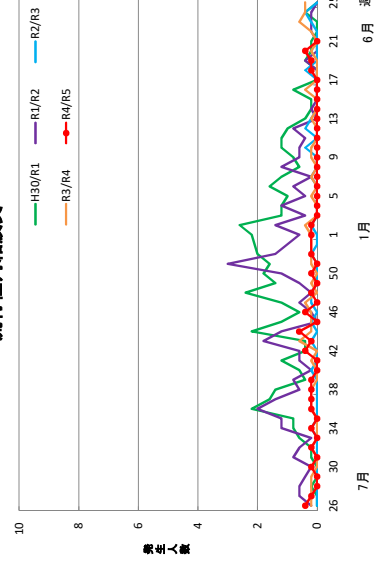


無菌性髄膜炎

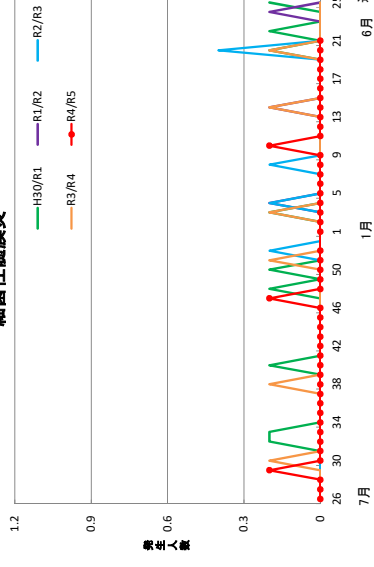


年次別発生状況グラフ(定点当たり)

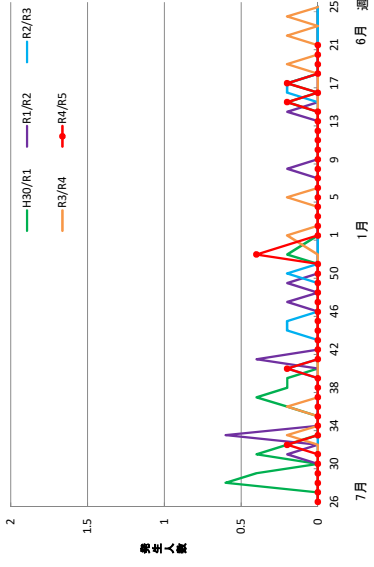
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎

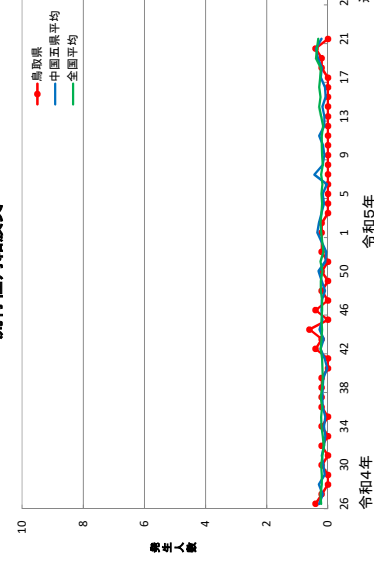


無菌性髄膜炎

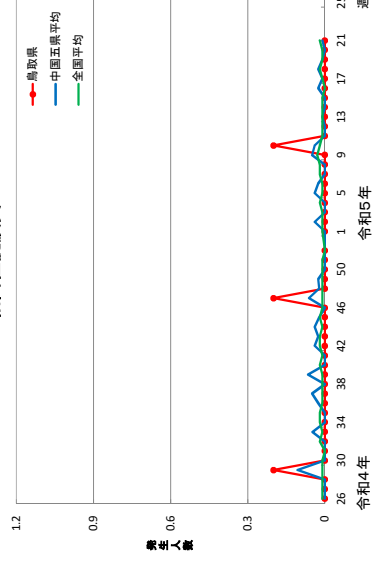


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

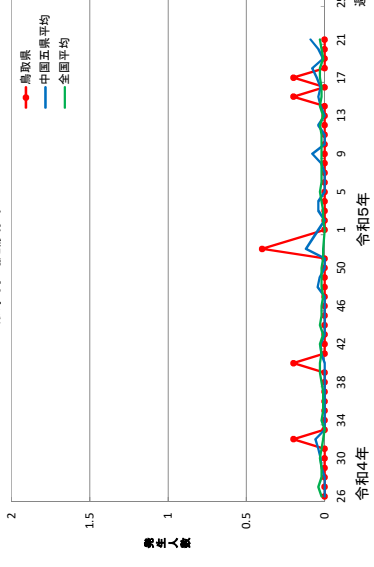
流行性角結膜炎



細菌性髄膜炎

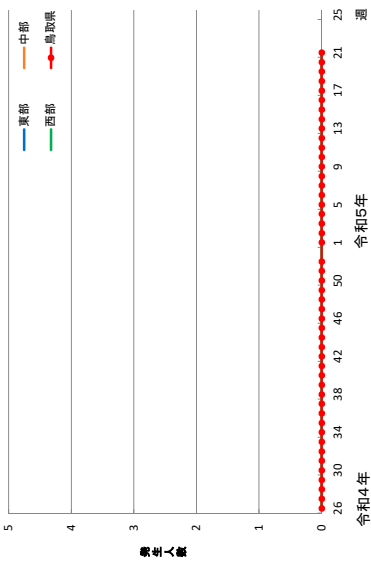


無菌性髄膜炎

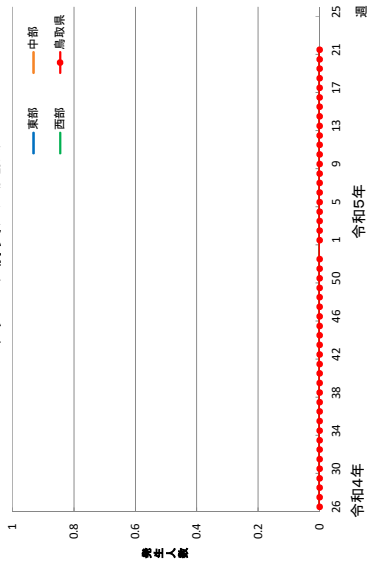


地区別発生状況グラフ(定点当たり)

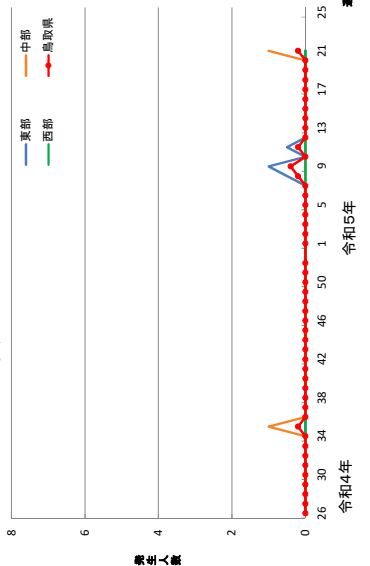
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム肺炎様性)

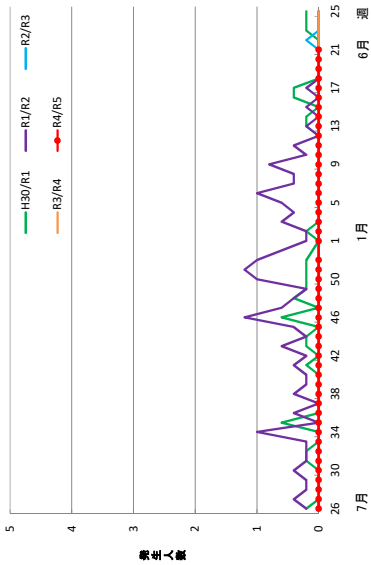


感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

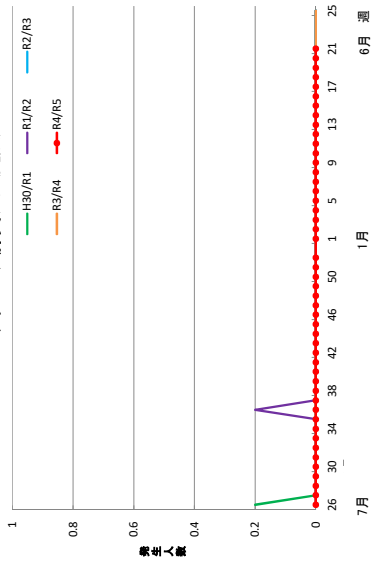


年次別発生状況グラフ(定点当たり)

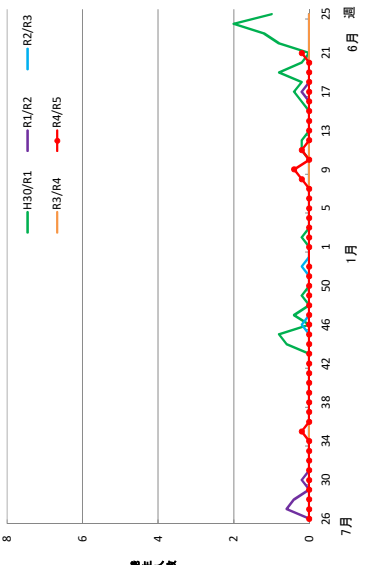
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム肺炎様性)

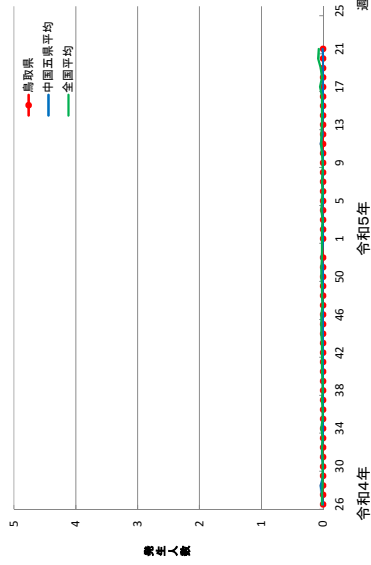


感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

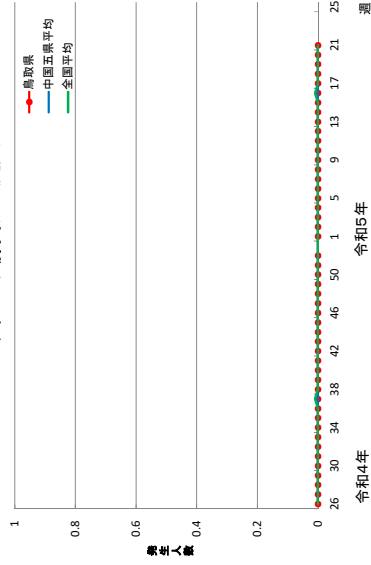


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

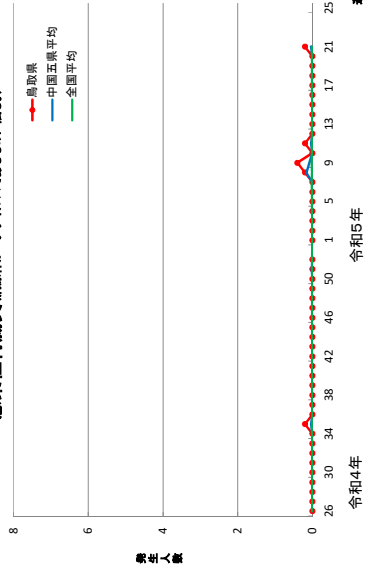
マイコプラズマ肺炎



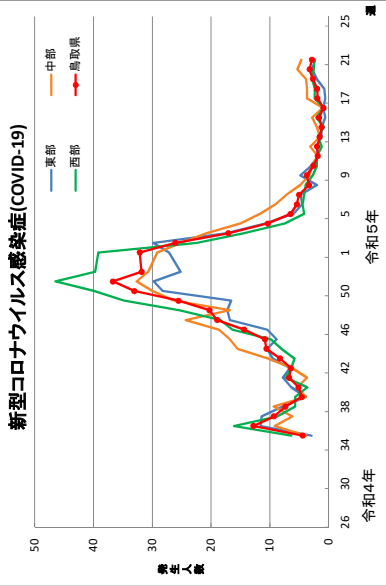
クラミジア肺炎(オウム肺炎様性)



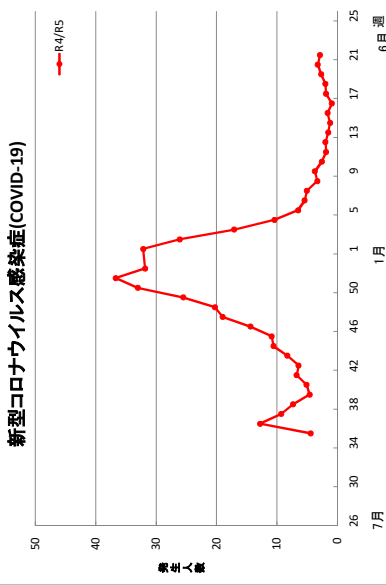
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)



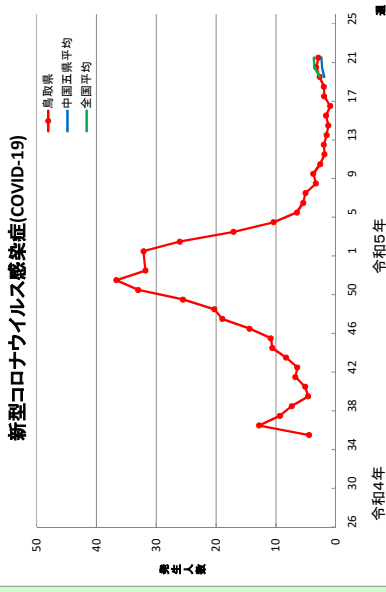
地区別発生状況グラフ(定点当たり)



年次別発生状況グラフ(定点当たり)

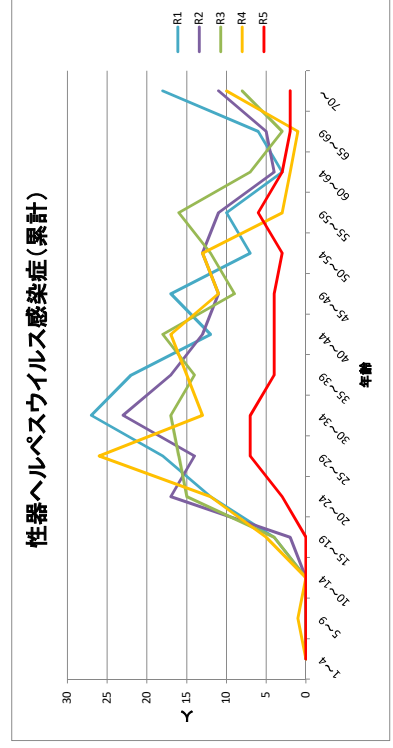
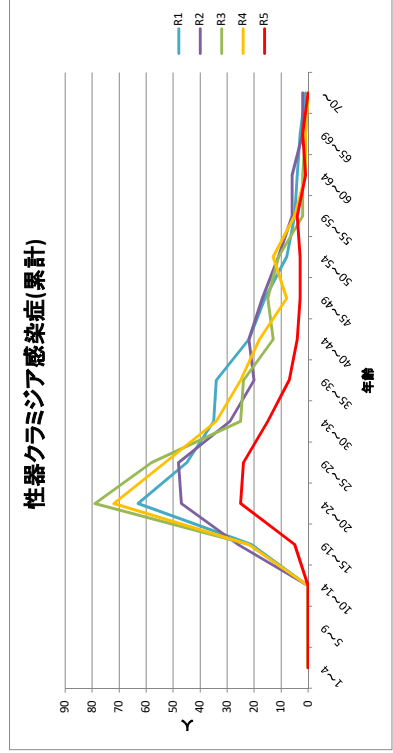
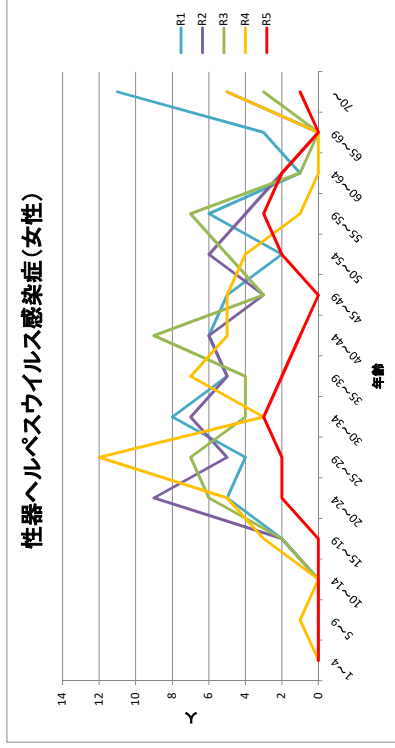
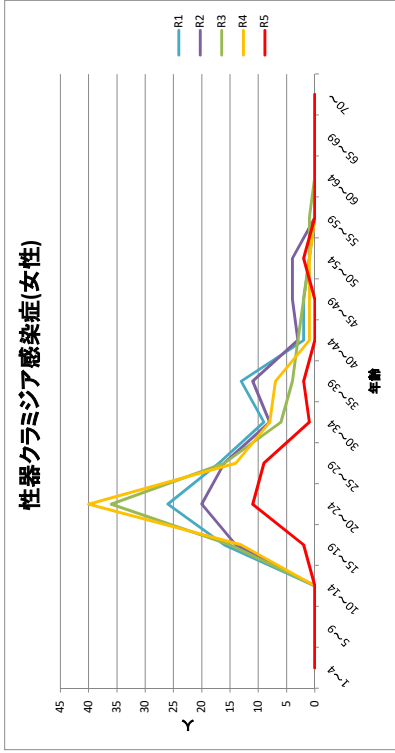
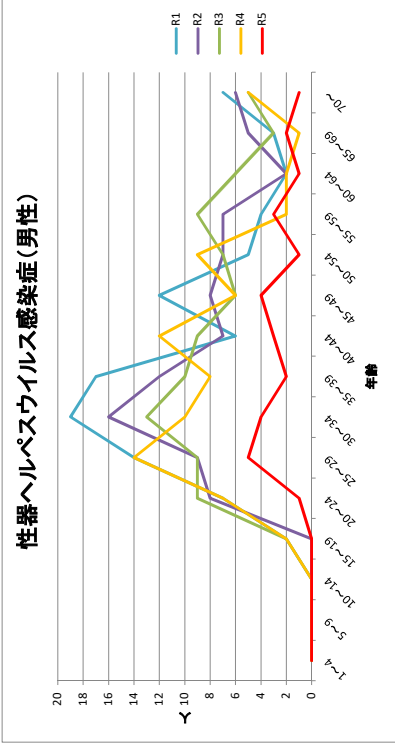
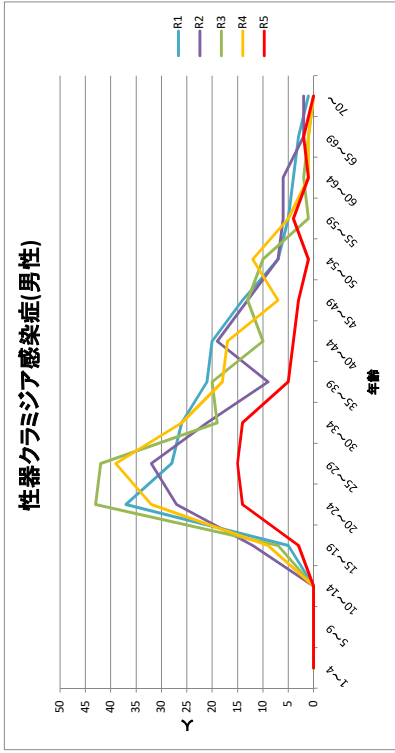


中国五県平均・全国平均との比較(定点当たり)

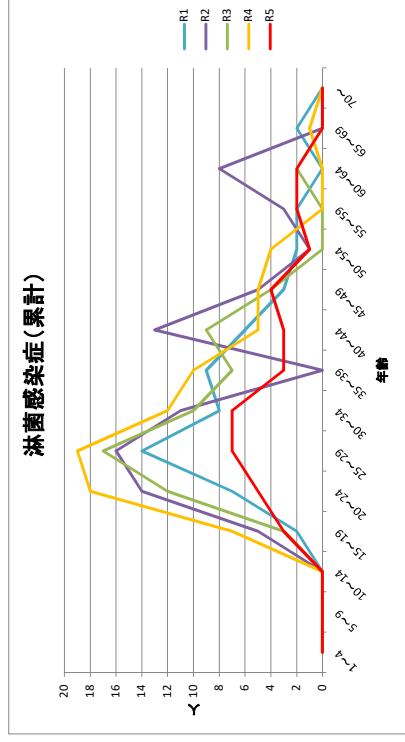
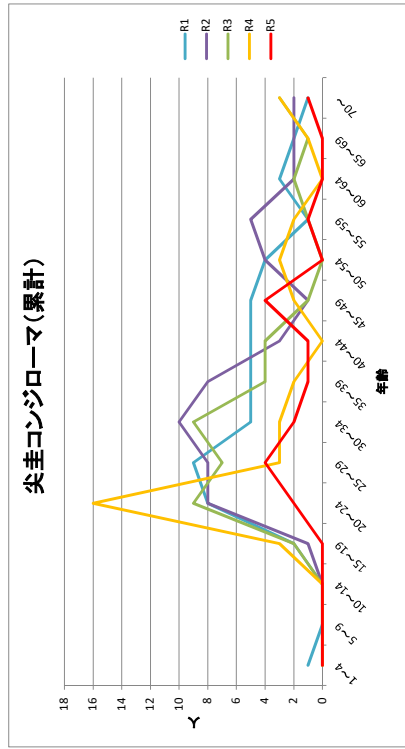
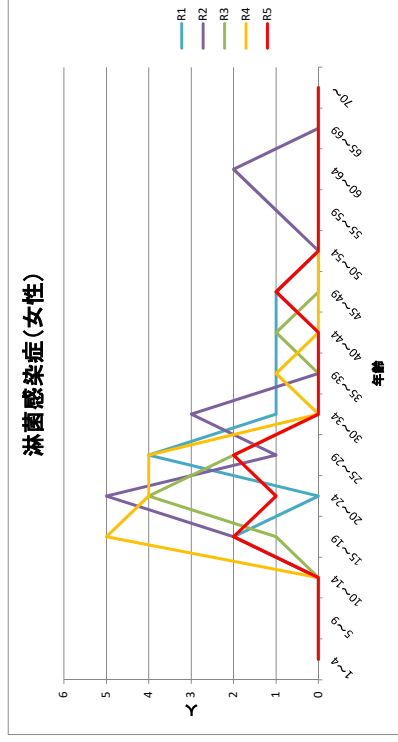
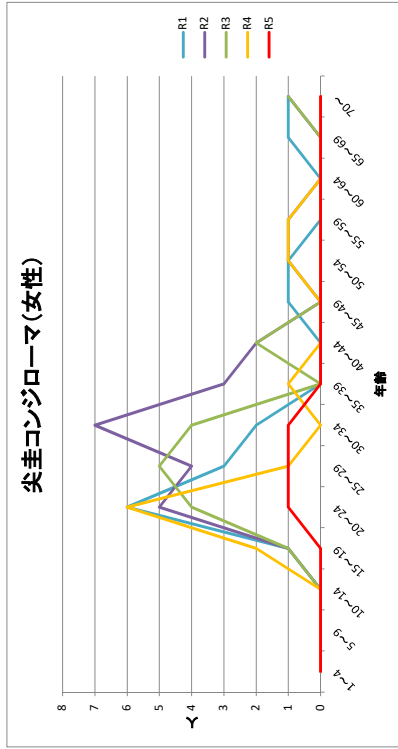
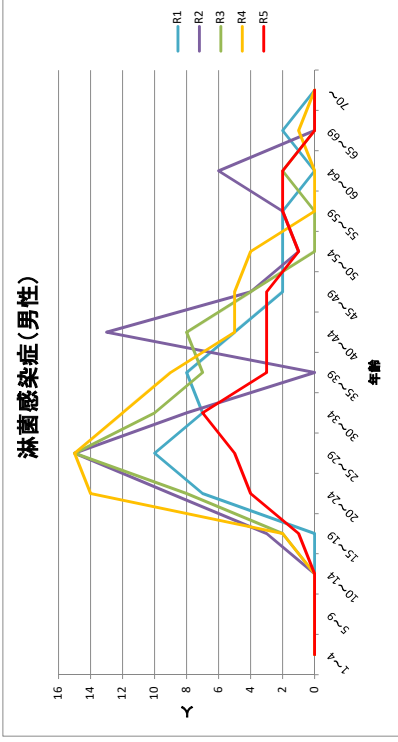
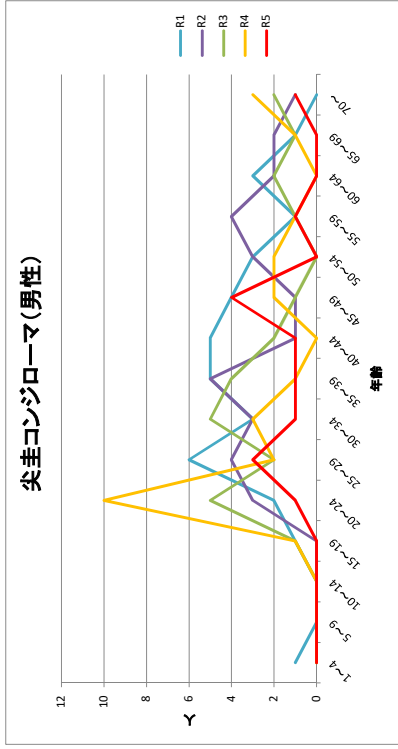


注)令和5年第18週(5/1～5/7)までは全数報告分のうち定点医療機関からの報告件数を元に算出。

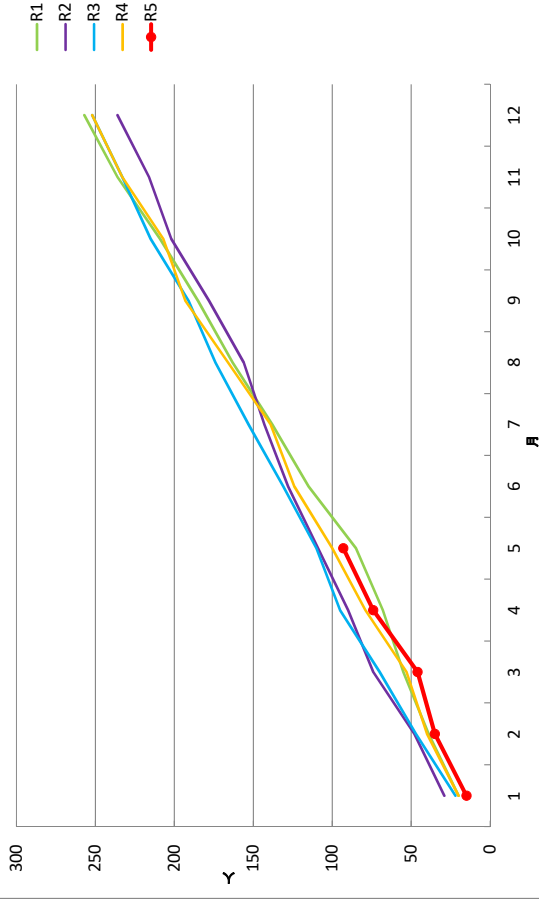
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



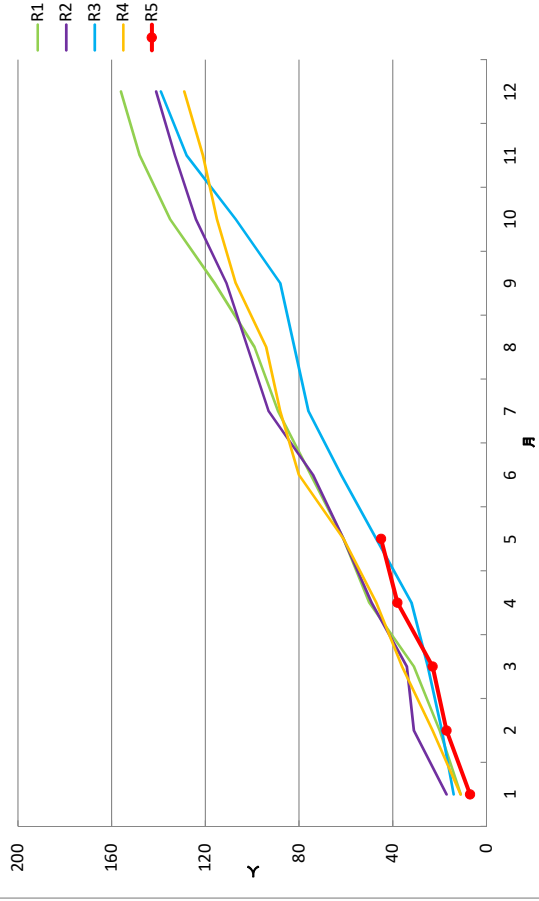
性感染症 年次別・年齢別・男女別累計グラフ



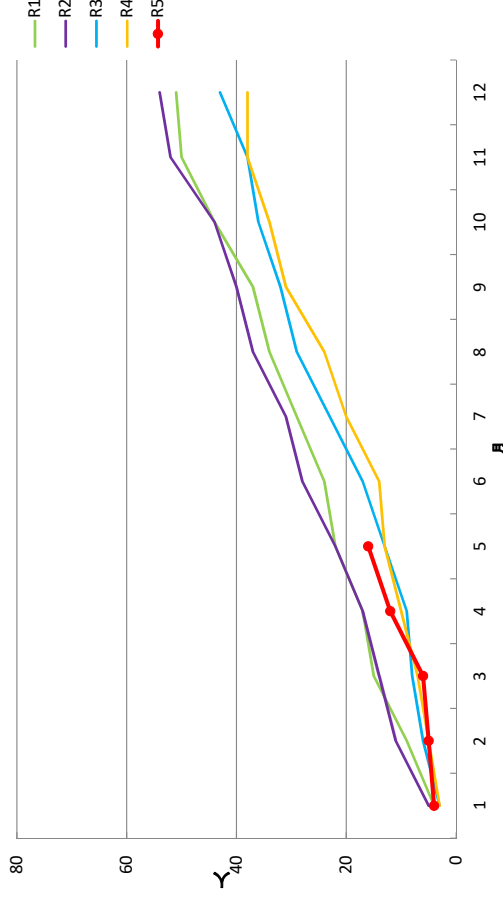
性器クラミジア感染症報告状況(累計)



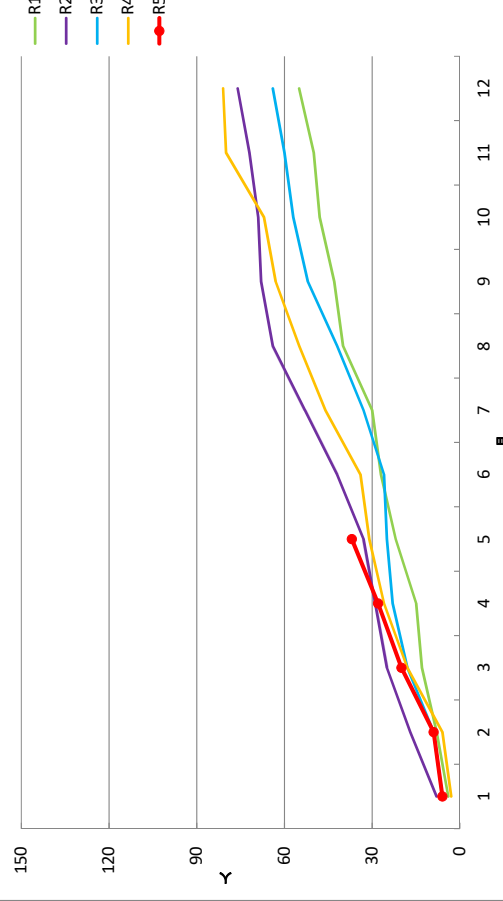
性器ヘルペスウイルス感染症報告状況(累計)



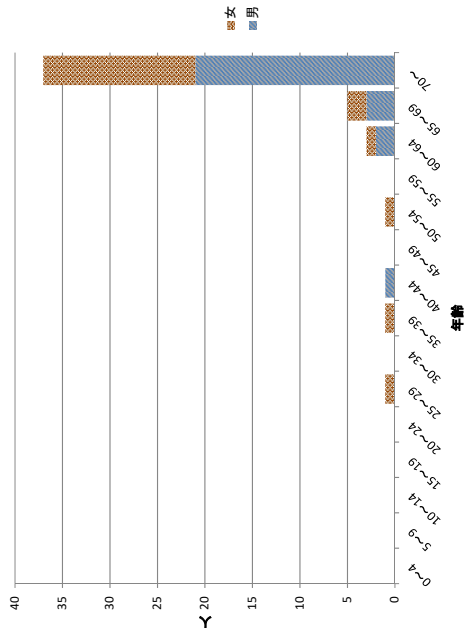
尖圭コンジローマ報告状況(累計)



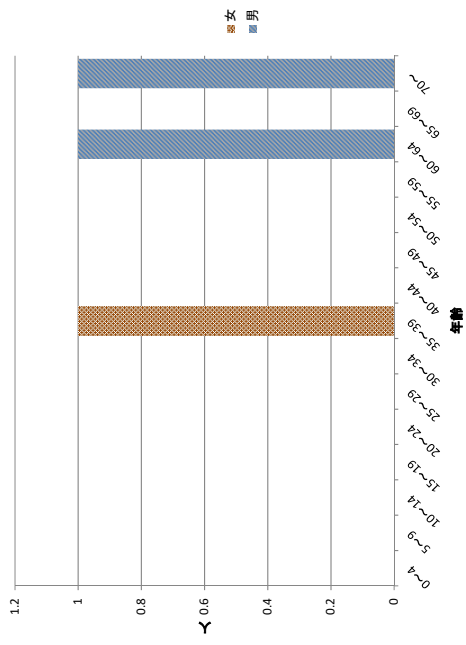
淋菌感染症報告状況(累計)



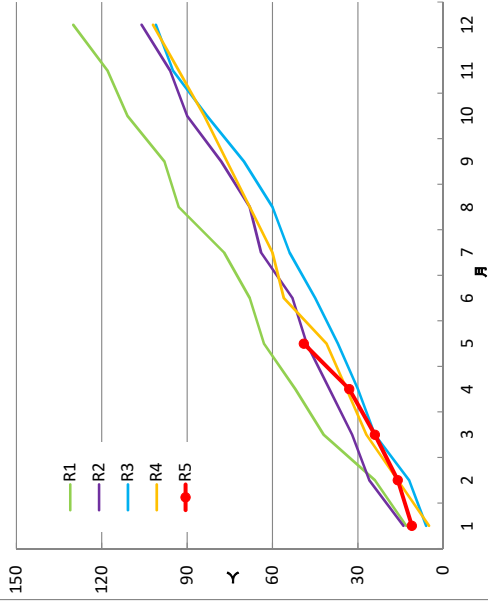
令和5年 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(年齢別累計)



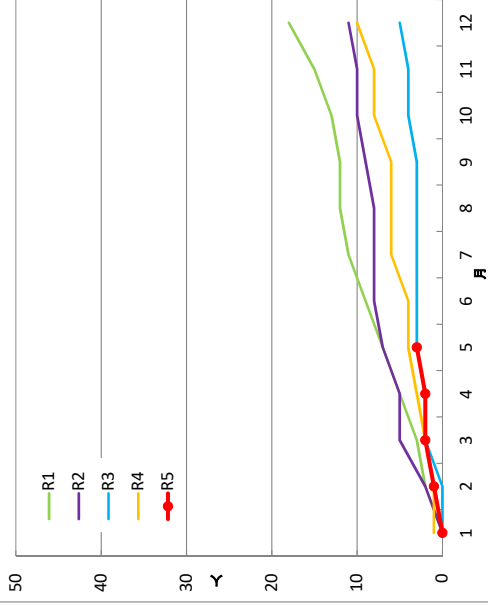
令和5年 ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(年齢別累計)



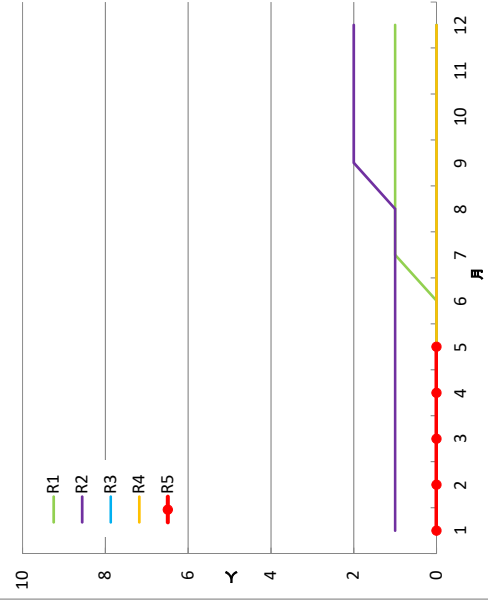
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症報告状況(累計)



ペニシリン耐性肺炎球菌感染症報告状況(累計)



薬剤耐性緑膿菌感染症報告状況(累計)



鳥取県における感染症発生状況(全数報告分・令和5年)

令和5年5月31日 現在
※()は前年数値

(1)2類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計								
													5月時点	年間							
急性灰白髄炎														0	(0)	(0)					
結核	1	(8)	2	(11)	5	(3)	2	(5)	5	(4)		(6)	(1)	(3)	(5)	(6)	(2)	(3)	15	(31)	(57)
潜在性結核 ※再掲		(2)		(5)	2	(2)		(1)	1										3	(10)	(18)
疑似症患者 ※再掲															0	(0)	(0)				
ジフテリア															0	(0)	(0)				
重症急性呼吸器症候群															0	(0)	(0)				
中東呼吸器症候群															0	(0)	(0)				
鳥インフルエンザ(H5N1)															0	(0)	(0)				
鳥インフルエンザ(H7N9)															0	(0)	(0)				

(2)3類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計					
													5月時点	年間				
コレラ															0	(0)	(0)	
疑似症 ※再掲															0	(0)	(0)	
細菌性赤痢															0	(0)	(0)	
腸管出血性大腸菌感染症				(2)				(1)	(2)	(3)				(3)	(3)	0	(2)	(14)
腸チフス															0	(0)	(0)	
パラチフス															0	(0)	(0)	

(3)4類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計				
													5月時点	年間			
マラリア													(1)	0	(0)	(1)	
E型肝炎														0	(0)	(0)	
A型肝炎														0	(0)	(0)	
つつが虫病	(1)				1			(1)							1	(2)	(2)
日本紅斑熱					(1)	1		(3)			(2)	(2)	(1)		1	(1)	(9)
重症熱性血小板減少症候群				1							(1)				1	(0)	(1)
レジオネラ症	1			(2)	(1)	1		2	(2)	(1)				4	(5)	(13)	
レプトスピラ症															0	(0)	(0)
デング熱															0	(0)	(0)
チクングニア熱															0	(0)	(0)

(4)5類感染症

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計							
													5月時点	年間						
アメルバ赤痢				1									(1)	1	(1)	(1)				
ウイルス性肝炎(E型・A型肝炎を除く)					1									1	(0)	(0)				
急性脳炎(ウエストナイル脳炎及び日本脳炎等を除く)	(1)			(1)				2	(1)					2	(2)	(3)				
クリプトスポリジウム症			1											1	(0)	(0)				
クロイツフェルト・ヤコブ病														0	(0)	(0)				
劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1					(1)	(1)				(1)		1	(0)	(3)			
後天性免疫不全症候群				2				1						(1)	3	(0)	(1)			
無症候性キャリア ※再掲				1				1							2	(0)	(0)			
AIDS ※再掲				1											1	(0)	(0)			
侵襲性インフルエンザ菌感染症											(1)	(1)	(1)		0	(0)	(3)			
侵襲性髄膜炎菌感染症														0	(0)	(0)				
侵襲性肺炎球菌感染症	1	(1)	1		1	(1)		(2)	(1)			(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	3	(4)	(10)
水痘(入院例に限る。)						(1)									0	(1)	(1)			
梅毒	1		6	(3)	1	(1)	4	(3)	3	(1)		(3)		(1)	(2)	(1)	15	(8)	(15)	
播種性クリプトコックス症				2				(1)						(1)	2	(0)	(2)			
破傷風														0	(0)	(0)				
薬剤耐性アシネトバクター感染症														0	(0)	(0)				
カルバペネム耐性腸内細菌感染症			2		1			(1)	(1)					(1)	3	(2)	(3)			
ジアルジア症				(1)										0	(1)	(1)				
百日咳					1			1	(1)					(1)	2	(1)	(3)			
麻しん														0	(0)	(0)				
風しん														0	(0)	(0)				

(5)新型コロナウイルス感染症(5/8以降定点把握)

疾病名	1月	2月	3月	4月	5月(7日まで)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計			
													5月時点	年間		
新型コロナウイルス感染症	22,907(2063)	4,687(3097)	2,336(2588)	1,483(2912)	464(2877)	(1440)	(1290)	(2546)	(8376)	(5882)	(13300)	(29552)		31,877	(13537)	(110429)

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

① 月別件数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計										
													5月時点	年間									
令和5年													0	(0)	0	(0)							
令和4年		2	(2)				1	2	3			3	(1)	3	0	(0)	14	(3)					
令和3年	1		3	(2)	1	(1)	2	(1)	1	(1)					1	(0)	10	(6)					
令和2年			1		2	(1)	7	(1)	2		3	(2)	7	(4)	3	(1)		1	0	(0)	26	(9)	
令和元年		1	1		6	(1)	1	2	4	(1)		3	(2)	4	2	(2)	0	(0)	24	(6)			
平成30年					3		1	4	(2)	9		4		1			0	(0)	22	(2)			
平成29年	1	(1)			1	1	(1)	7	(3)	5	(2)	1			4	(3)	1	(1)	1	(1)	21	(11)	
平成28年						5	(4)	3	(1)	6	(1)	1			1	(1)	0	(0)	16	(7)			
平成27年						3	(2)	33	(23)	12	(7)	10	(6)	1	(1)	1		0	(0)	60	(39)		
平成26年					7	(4)	1	1	1	1		5	(3)				0	(0)	15	(7)			
平成25年		1	(1)		1		6	7	(3)	4	(1)	7	(2)				0	(0)	26	(7)			
平成24年						2		1	5	(1)		6	(2)		1		0	(0)	15	(3)			
平成23年				1	5	(2)	3	(2)		2	(1)	3	(1)	4	(2)	1		1	1	0	(0)	20	(8)

② 血清型別件数

区分	O8	O26	O29	O91	O103	O119	O111	O121	O125	O128	O145	O146	O157	型不明	計				
令和5年															0	(0)			
令和4年					3							2	(2)	8	1	(1)	14	(3)	
令和3年					4	(2)						1	(1)	3	(1)	2	(2)	10	(6)
令和2年	1	4	(2)	1	4	(2)	3	(1)	1	(1)	1	1	(1)	7	3	(2)	26	(9)	
令和元年					3	(1)	4	(1)						15	(2)	2	(2)	24	(6)
平成30年		2			3						1			16	(2)		22	(2)	
平成29年		1			2	(1)	4	(3)				1	(1)	10	(3)	3	(3)	21	(11)
平成28年		1	(1)											14	(5)	1	(1)	16	(7)
平成27年		40	(28)		1	4	(2)	1				1	(1)	9	(4)	4	(4)	60	(39)
平成26年		7	(4)				5	(3)						3			15	(7)	
平成25年		3	(1)					1						21	(5)	1	(1)	26	(7)
平成24年														15	(3)		15	(3)	
平成23年		9	(4)		2	(1)								7	(2)	2	(1)	20	(8)

③ 年齢別件数

区分	～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計									
令和5年												0	(0)								
令和4年	5	1	2	1	1	2	(1)			2	(2)	14	(3)								
令和3年	1		1	(1)	1	(1)		1	(1)	1	(1)	3	(2)	2		10	(6)				
令和2年	7	2	2	2	1	(1)	4	(4)	3	(1)	3	(3)		2		26	(9)				
令和元年	9	(2)	2		4	(2)	2		1	(1)	3	(1)	3			24	(6)				
平成30年	2	2			10	(1)	3	(1)	1		2		1			22	(2)				
平成29年	3	(1)	1	2	(1)	2	(1)	2	(2)	2	(2)	4	(3)	4	(1)	1	21	(11)			
平成28年	4	4	(3)		1	2	(1)	3	(2)	1	(1)			1		16	(7)				
平成27年	22	(13)	18	(12)	2	(1)	2	(2)	4	(4)	6	(3)	1	(1)	3	(2)		2	(1)	60	(39)
平成26年	6	(1)	3	(1)			2	(2)	2	(2)	1			1	(1)		15	(7)			
平成25年	6		2		3	(1)	1	3	(1)	1	2	(1)	3	(1)	2	(1)	26	(7)			
平成24年	3		3	(1)	3		1	2	(2)		1					15	(3)				
平成23年	4	(1)	5			3	(1)	3	(2)		1	(1)	2	(2)	1	1	(1)	20	(8)		
平成22年	6		4	(3)	1	2		3		2	(2)	1	(1)	1	(1)		21	(7)			

④ 地区別件数

区分	東部地区	中部地区	西部地区	計				
令和5年				0	(0)			
令和4年	5	(1)	6	3	(2)	14	(3)	
令和3年	4	(2)	3	(2)	3	(2)	10	(6)
令和2年	3		15	(5)	8	(4)	26	(9)
令和元年	6	(2)	14	(3)	4	(1)	24	(6)
平成30年	7		5		10	(2)	22	(2)
平成29年	1		8	(4)	12	(7)	21	(11)
平成28年	2	(1)	12	(5)	2	(1)	16	(7)
平成27年	4	(4)	45	(31)	11	(4)	60	(39)
平成26年	1		8	(4)	6	(3)	15	(7)
平成25年	4	(1)	9	(3)	13	(3)	26	(7)
平成24年	7	(2)	1		7	(1)	15	(3)
平成23年			2	(1)	18	(7)	20	(8)

鳥取県病原微生物検出情報

(令和5年5月～6月検出分；検体採取 令和5年3月～6月)

令和5年6月16日

鳥取県衛生環境研究所

1 インフルエンザ

臨床診断名がインフルエンザ、インフルエンザ様疾患の検体2件（検体採取4月上旬～5月上旬）について、検査を行ったところ、1件からインフルエンザA（H1N1）pdm09型が検出され、残り1件からはインフルエンザウイルスは検出されなかった。（詳細は表1のとおり）

表1 2022/23 シーズン鳥取県インフルエンザ検出情報

検体採取時期		検体採取場所	検体数	A型別、B系統別				備考
年	月日			A(H1N1)pdm09型	A H3型	B victoria	B 山形	
2023	4月3日	西部	1	1				
病原体定点PCR検査合計 (2023/4/3～現在)			1	1	0	0	0	

全国のインフルエンザ患者から分離・検出されたウイルスについては、国立感染症研究所の病原微生物検出情報（6月9日作成）によると、2022/23 シーズンは、A H3 型が最も多く報告されている。（図1）

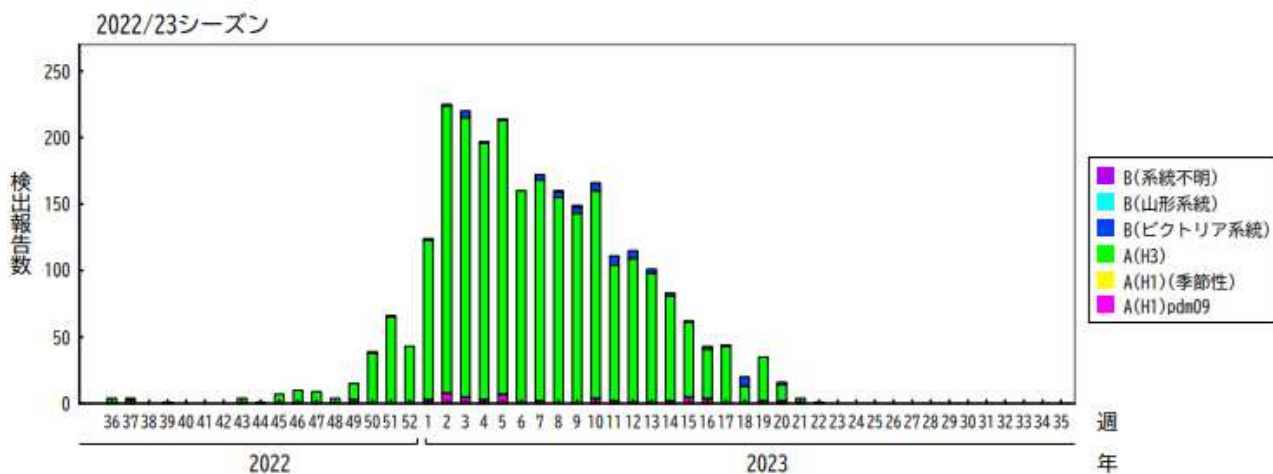


図1 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数（2022/23 シーズン）

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の検体4件について、検査を行ったところ、ノロウイルス3件、黄色ブドウ球菌1件が検出された。(詳細は表2のとおり)

表2 感染性胃腸炎検査状況

検体番号	検体採取時期	ノロウイルス	サポウイルス	A群ロタウイルス	C群ロタウイルス	アデノウイルス	アストロウイルス	エンテロウイルス	エンテロトキシンA遺伝子(黄色ブドウ球菌)
230002	4月上旬	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	検出
230004	4月上旬	検出 G II.3[P12]	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
230005	4月上旬	検出 G II.3[P12]	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
230007	4月上旬	検出 G II.4[P31]							
検出計		3件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	1件

(-) : 未検出

3 無菌性髄膜炎

臨床診断名が無菌性髄膜炎の検体1件(検体採取3月下旬(検体番号230001))について、アデノウイルス、エンテロウイルス、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルス6型、7型の検査を実施したところ、いずれも検出されなかった。

4 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の検体1件(検体採取4月上旬(検体番号230006))について、ムンプスウイルスは検出されず、ヘルペスウイルス6型、7型の検査を実施したところ、ヘルペスウイルス7型が検出された。

5 麻疹

行政検査として依頼のあった麻疹疑いの検体(検体採取6月上旬)について、麻疹ウイルスが検出された。WHOの推奨するN領域の450塩基の配列を決定し、系統樹解析の結果、D8型であることが判明した。

国内麻疹発生事例のある都道府県への移動・滞在歴があったため、2023年に国内で確認された症例の塩基配列との相同性について系統樹解析、ハプロタイプネットワーク解析により確認したところ、東京株及び茨城株とは4塩基、大阪株とは2塩基の差異が確認された(図2)。

一方、2021年以降にNCBI(National Center for Biotechnology Information)にて公開された世界のD8型のN領域の450塩基配列についてハプロタイプネットワーク解析を行ったところ、東京株及び茨城株と同一の塩基配列が多数検出された(図3)。

麻疹ウイルスはRNAウイルスにも関わらず、その塩基置換率は他のRNAウイルスよりも低いとされている^[1]。最近では、N領域の450塩基の1塩基あたりの置換率がD8型で 9.23×10^{-4} /年との報告もなされている^[2]。この置換率であれば、N領域の450塩基のいずれかで置換が生じるのは、約2年で1塩基となる。今回、県内で検出されたD8型(鳥取株)と東京株及び茨城株とは4塩基の差異が確認されており、関連性は乏しい可能性が示唆された。

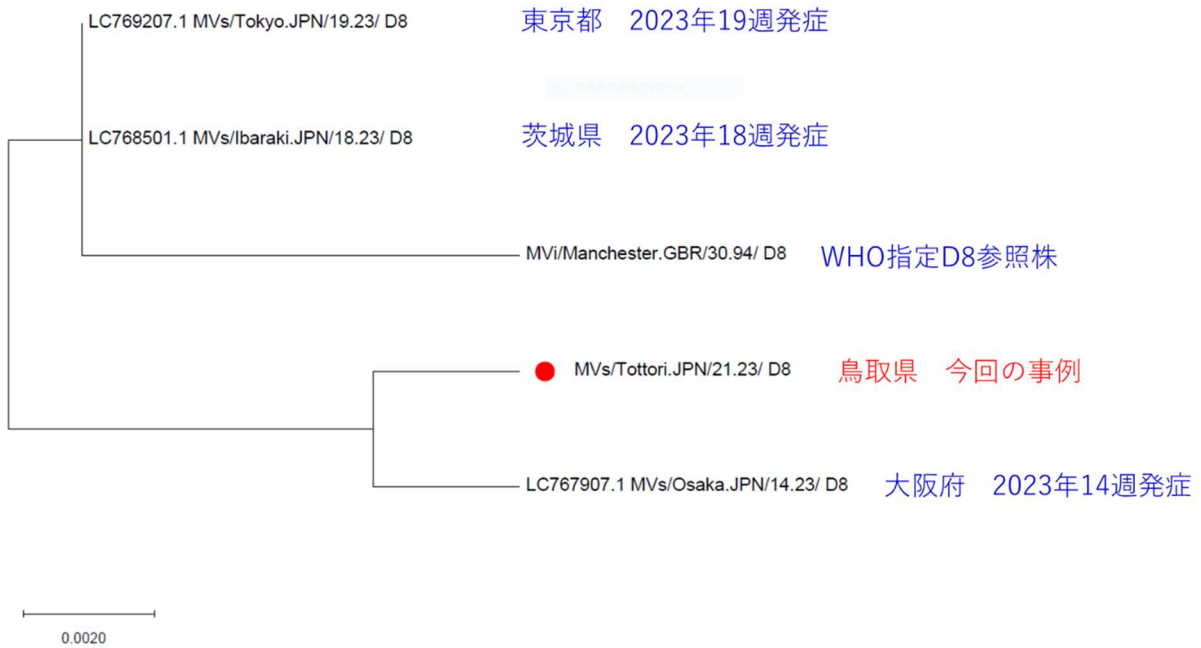


図2 2023年に日本国内で確認された麻疹ウイルスの系統樹

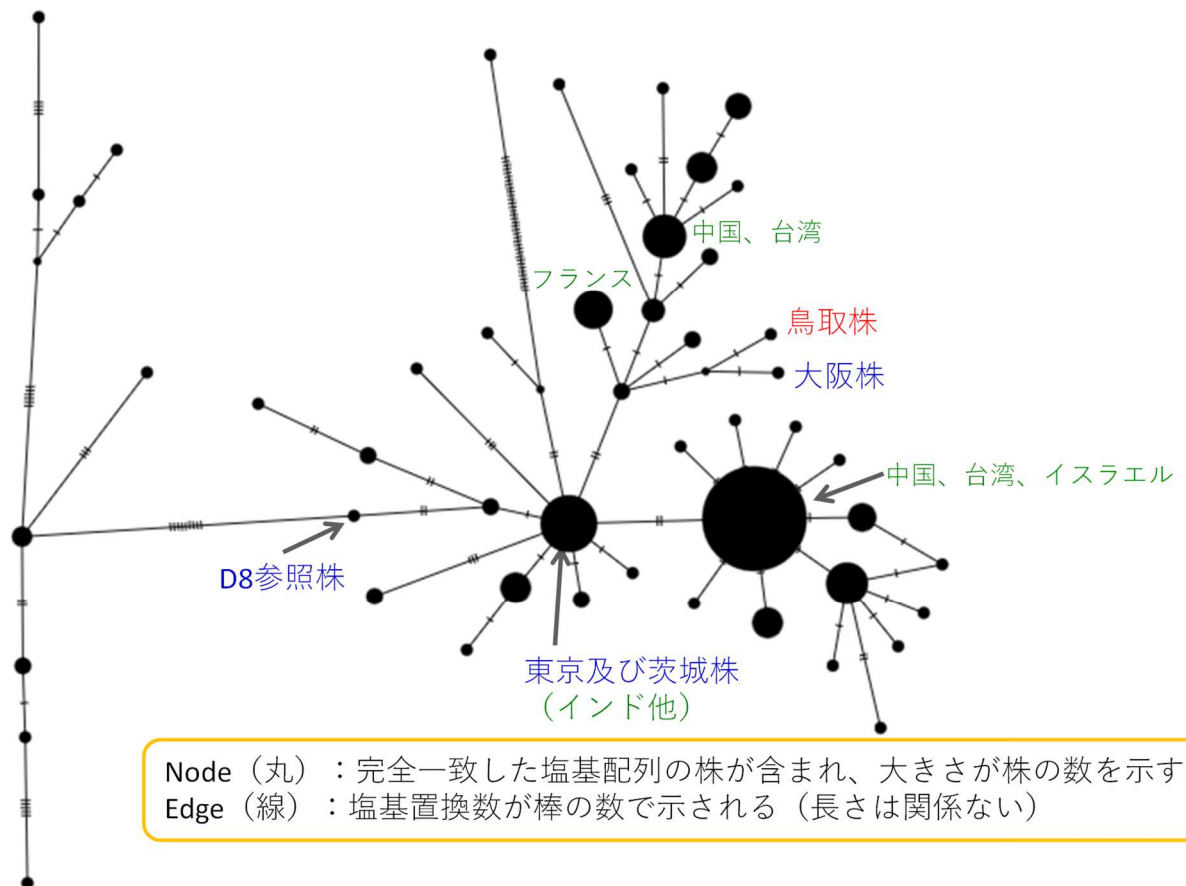


図3 2021年以降にNCBIにて公開された麻疹ウイルスD8型と鳥取株のハプロタイプネットワーク図

参考文献

- [1] D. Williams et al. Update: circulation of active genotypes of measles virus and recommendations for use of sequence analysis to monitor viral transmission, WHO WEEKLY EPIDEMIOLOGICAL RECORD, Vol:39, 485-492, 2022
<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/363332/WER9739-485-492-eng-fre.pdf?sequence=1&isAllowed=y>
- [2] Ana Raquel Penedos et al. Mind your Ps: A probabilistic model to aid the interpretation of molecular epidemiology data, EBioMedicine. 2022 May; 79: 103989. Published online 2022 Apr 7. doi: 10.1016/j.ebiom.2022.103989
<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9006250/>

